

Matsushita Museum of Art 771 Fukuyama Fukuyama Cho Kirishima City Kagoshima Japan

一般財団法人 松下美術館報

No.40

Matsushita Museum of Art 771 Fukuyama Fukuyama Cho Kirishima City Kagoshima Japan



- 収蔵品紹介
- 第40回 南九州水墨画展
- 40回 記念展
- 水墨画教室
- 寄贈作品
- 無料入館のご案内
- 館長の史跡探訪印象記—22回目—

《収蔵品紹介》



『良き羊飼いの祈り』 1480×713cm
チャールズ・イーマー・ケンプ
(Charles Eamer Kempe) 1837年～1907年

『良き羊飼いの祈り』は、新約聖書「ルカによる福音書」第2章に基づくキリスト降誕を主題とするステンドグラスの一部で、羊飼いたちがキリスト誕生の知らせを受け、礼拝する場面を表しています。隣接するステンドグラスには、馬小屋における幼子イエスとマリアの場面が配されていたと考えられます。画面右上の天使は「Gloria in excelsis Deo(いと高きところには神に栄光あれ)」の文字を掲げており、これは降誕の夜に天使が羊飼いたちに告げた賛歌の一節です。羊飼いの姿は、キリストの誕生が特別な人々だけでなく、すべての人に向けられた出来事であることを伝えています。

チャールズ・イーマー・ケンプは、19世紀後半イギリスにおけるゴシック・リヴァイヴァル[※]の潮流の中で、中世キリスト教美術の精神性と様式を再評価し、敬虔さと装飾性を重視したステンドグラス表現を確立しました。作品『良き羊飼いの祈り』は、柔らかな色彩と繊細な人物描写により、キリストの誕生を静謐で祈りに満ちた情景として表現しています。

この作品は、1号館1階ロビーに展示しております。

[※]ゴシック・リヴァイヴァル：19世紀のヨーロッパ、特にイギリスで展開した、中世ゴシックの精神性と様式を再評価・復興しようとする動向のこと。建築様式として始まり、やがて美術・工芸を含む総合的な芸術運動へと展開した。

ご挨拶

一般財団法人 松下美術館
代表理事 松下 兼介



本日は、第40回全国公募南九州水墨画展の表彰式にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、開会に先立ち、皆様とともに芝龍郎先生へ黙祷を捧げさせていただきました。芝先生には、南九州水墨画展の第1回展より審査員をつとめていただき、長年にわたり本展を支えていただきました。第40回展も、大変楽しみにしておりましたが、昨年ご逝去されましたことは誠に残念でなりません。

先生の遺作は、南九州水墨画展40回記念回顧「墨画－松下美術館の軌跡」展に展示しております。なお、芝先生のこれまでのご功績につきましては、南九州水墨画展40回を記念して開催する記念祝賀会（城山ホテル鹿児島）において、学芸員よりあらためてご紹介いたします。

また、芝先生の後任として、大谷喜郎先生をお迎えいたしました。後ほど講評の際にご挨拶があるかと思いますが、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

今回「第40回全国公募南九州水墨画展」の開催にあわせ、過去10年間の南九州水墨画展で入賞された作品約50点をお借りし、40回記念回顧展をここ鹿児島市立美術館と霧島市役所国分市庁舎1階ロビーにて同時開催する運びとなりました。10年間の軌跡をたどる記念回顧展は、都城市立美術館でも巡回展示を予定しております。宮崎の皆さまにも水墨画の魅力を知っていただき、今後の出品につながることを期待しております。

南九州水墨画展の審査につきましては、実際に水墨画を制作されている先生方の視点、水墨画を含め学術的に研究されている先生方の視点、そして私を含めまして一般の鑑賞者の立場から「ああいいな」と感じられる視点など、さまざまな観点から選考を行っております。近年では、鹿児島県外からの出品数が全体の半数を占めるようになりました。県外の「我こそは」という意欲的な出品が増えることは、鹿児島県内の出品者の方々にとりましても、非常によい刺激になっているのではないかと思います。

審査に関しましては、後ほどそれぞれ審査員の先生方が講評されます。また、表彰式終了後には展示会場にて、入賞された作者ご本人による作品解説を予定しておりますので、ぜひご参加ください。その後、祝賀会を開催いたします。多くの皆さまにご参加いただけると伺っており、心に残るよい祝賀会となることを願っております。

本日は、遠方よりお越しの方も多く、また天候のすぐれない時期にもかかわらず、このように多くの皆さまに表彰式へご参加いただきましたことに心から感謝申し上げます。館長の挨拶に代えさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。（令和7年7月13日）

《入賞・入選者発表》

入賞の部

結 果	作 者 名	作 品 名	サイズ	備 考
鹿児島県知事賞 松下美術館館長賞	田 川 稔 子	響子ちゃんと水紋	20	鹿児島市
霧 島 市 長 賞	小谷野 嘉 子	内なる菩薩	F20	東京都
優 秀 賞 南日本新聞社賞	田 畑 弘 子	不安定な未来	20	鹿児島市
優 秀 賞	安 楽 千恵子	産卵	20	南さつま市
優 秀 賞	小 倉 繁 子	屋根、屋根、屋根！	20	大分県
秀 作 賞	馬 場 鷹 虹	黄金の富士山	F20	東京都
秀 作 賞	中 園 淳一郎	箱男'25	65cm×65cm	鹿児島市
秀 作 賞	小田柿 寿 郎	裏通り	F20	滋賀県
秀 作 賞	浜 田 真喜子	赤トンボ	20	鹿児島市
秀 作 賞	河 端 庸 雄	降るかなあ	20	愛媛県
無 鑑 査 賞	伊與田 喜代美	WILDLIFE -喪失と再生-		神奈川県

入選の部

結 果	作 者 名	作 品 名	サイズ	備 考
入 選	橋 口 カツ子	いやされて	20	南さつま市
入 選	橋 口 カツ子	白い花	20	南さつま市
入 選	小 亀 文 代	酔芙蓉	20	香川県
入 選	外 崎 裕 滢	冬の白神山	F20	青森県
入 選	杉 野 博	水化粧	F20	鹿児島市
入 選	宮 田 貞 子	清涼	20	熊本県
入 選	森 山 明 美	dynamic	20	大分県
入 選	大 原 鶴 雄	名月が贈った幸せ	20	鹿児島市
入 選	七 村 富 子	夏休み	20	鹿屋市
入 選	永 吉 ひと美	ゼロからのチャレンジ♪	F20	鹿児島市
入 選	増 山 光 子	歴史を刻んで	F20	鹿児島市
入 選	坂 中 正 典	雨月	F20	和歌山県
入 選	江 田 直 子	いにしへの道	20	鹿児島市
入 選	原 口 たい子	大地に生きる	20	鹿児島市
入 選	岩 元 明 美	藤波の花は盛りになりにはけり	20	鹿児島市
入 選	谷 口 禮 子	マチュピチュの思い出	20	兵庫県
入 選	山 西 智 美	空翔ぶ恐竜		兵庫県
入 選	櫛 下 多恵子	たわわな実り		鹿児島市

結果	作者名	作品名	サイズ	備考
入選	新川 美代子	屋久島に生きる	F20	鹿児島市
入選	山下 則子	春陽の参道	20	鹿児島市
入選	榎田 耕治	遺跡	20	鹿児島市
入選	岩野 信吾	月と波	20	神奈川県
入選	川原 はま子	我仁王尊なり	20	鹿児島市
入選	根比 れい子	楽園	20	鹿児島市
入選	佐藤 周作	這い上がる	M20	鹿児島市
入選	下窪 瑞江	護岸の片隅(鴨池港)	F20	鹿児島市
入選	松永 俊枝	怪鳥襲来	20	鹿児島市
入選	清水 恵峰	雲山幻幽	F20	福岡県
入選	永野 安郎	泰平・豊穰を祈って!	F20	志布志市
入選	入舟 和子	寺院	20	鹿児島市
入選	久次米 加代子	微笑み	20	大分県
入選	小田 華實	もうすぐ春ですね	F20	南さつま市
入選	立花 純之	瀑流眺望		曾於市
入選	藤谷 實	街の遺産		広島県
入選	三宅 玲子	緑降る季節	F20	東京都
入選	高尾 久美子	絶対無二の一球	20	香川県
入選	松元 洋子	水の都	20	鹿児島市
入選	清水 孝子	羅漢像	20	福岡県
入選	田路 喜久子	飛翔	20	兵庫県
入選	吉留 政孝	おかげさまで	F20	鹿児島市
入選	上野 貢一	渦	20	南さつま市
入選	馬渡 裕子	食べられるのかな?	20	鹿児島市
入選	嶽本 幸子	若夏	F10	熊本県
入選	池上 和昭	観覧	20	鹿児島市
入選	植山 貞子	マオリの女	20	大分県
入選	福園 睦雄	元気に育て	20	鹿児島市
入選	池添 史朗	福寿の七福神	64×30	鹿屋市
入選	梶田 信子	阜陽	20	東京都
入選	山崎 美千代	楽しみのせんべろへ	F20	始良市
入選	満留 ミエ子	早朝の道	20	いちき串木野市
入選	満留 辰男	寺山公園から	20	いちき串木野市
入選	藤野 美恵子	薔薇の華	F20	滋賀県
入選	池田 協治	羅漢像	20	大分県
入選	石丸 京子	春よこい	20	愛媛県
入選	渡部 利舟	ご神木	F20	愛媛県
入選	鴻上 勝繁	静寂	20	愛媛県
入選	本長谷 孝充	朝霧の湖辺	F20	薩摩川内市

結 果	作 者 名	作 品 名	サイズ	備 考
入 選	阿 喜	黒豹～一意専心～	20	福 岡 県
入 選	吉 田 昌 勝	収穫	20	福 岡 県
入 選	田 口 綾 子	春の訪れ	F20	南 九 州 市
入 選	長 井 竜 仙	鶴の穴(甌島)	F20	鹿 児 島 市
入 選	長 井 笠 赤	晩秋の滝之下	F20	鹿 児 島 市
入 選	Troutman Christopher	空間の観察 10(熊野神社)	20	宮 崎 県
入 選	佐 多 光 城	過去の松下6号館	20	宮 崎 県
入 選	穂 積 英 一 郎	羽音	20	鹿 児 島 市
入 選	中 野 広 志	高値いつまで	20	鹿 屋 市
入 選	入波平 八代美	こころ弾む	20	東 京 都
入 選	柏 原 良 太 郎	世界平和	20	香 川 県
入 選	佐 野 奈 津 美	通り雨	F15	沖 縄 県
入 選	上 村 豊 子	海月		滋 賀 県
入 選	有 延 美 智 子	石橋の水路	F20	福 岡 県
入 選	安 田 秀 樹	阿吽	20	始 良 市
入 選	中 俣 シマ子	冠雪	20	薩 摩 川 内 市
入 選	山 下 香 菜 子	桜島は生きている	F20	東 京 都
入 選	佐 藤 洋 子	緑風	20	東 京 都
入 選	堂 囿 ヨシ子	朝もや	F20	薩 摩 川 内 市
入 選	篠 原 マリ子	パワースポット	20	鹿 児 島 市
入 選	佐々木 信 毅	蛇使い	20	東 京 都
入 選	古 山 秀 子	大道芸人	20	東 京 都
入 選	三 浦 はるみ	春を告げて	F20	神 奈 川 県
入 選	長 野 イク子	鎌倉時代からの勇姿		鹿 児 島 市
入 選	吉 元 よしえ	草露白	20	福 岡 県
入 選	靖 涯	おやすみ前の念入りなお手入れ	20	鹿 児 島 市
入 選	藤 門 葉 子	復興に向って	20	熊 本 県
入 選	森 川 道 子	香ににほふ	F20	京 都 府

《審査講評》

石川 千佳子

(宮崎大学名誉教授・放送大学特任教授)



鹿児島県知事賞・松下美術館館長賞
『響子ちゃん和水紋』
田川 稔子

受賞者そして入選者の皆様、本日は誠にありがとうございます。私は日本の芸術論を研究する傍ら評論活動を行っており、全国の展覧会を見ているのですが、伝統的な形式に依らない、写生にもとづく水墨画の公募展はたいへんユニークで、しかも長く続いていることは素晴らしいといつも感じ入っております。今回は、受賞された方々の作品につきまして講評申し上げます。

まず、最高賞 鹿児島県知事賞・松下美術館館長賞を受賞された田川稔子さんの『響子ちゃん和水紋』です。一見して墨の発色が鮮明で、渦巻くような動きを感じさせます。鯉は日本の伝統的な画題で、数多くの作品が描かれてきました。それだけに、無意識のうちに定型的な構図になってしまいがちです。ところがこの作品では、上からのぞき込むような角度で、鯉が水面から顔を出した瞬間の表情を、たいへん生き生きと捉えることに成功しました。自然の生命力を看取るという、東アジア的な意味での写生が活かされた作品だと思います。鯉の出現によって生じた水紋の動きの描写と水面の像の揺らぎにも臨場感があります。今回初出品と伺っていますが、受賞にとらわれることなく、のびのびと制作を続けられて、また応募なさっていただけたらと思います。

次に霧島市長賞を受賞された小谷野嘉子さんの『内なる菩薩』です。この作品は墨の発色も鮮やかで、しかもよくコントロールされたほかしやグレーの階調が美しい作品です。菩薩は、もともと勇猛果敢に修行に励む在家の存在で、豪華な装飾品や衣装を身に着けた姿で表されますが、この心のうちに住まう菩薩は、悟りを開いた如来に近いシンプルな姿で描かれています。輪郭線や顔貌の線描に、長年水墨画を描いてこられた経験が反映されています。葛藤の中から浮かび上がる祈りの象徴でしょうか。安らかなお顔です。

優秀賞・南日本新聞社賞を得た田畑弘子さんの『不安定な未来』では、澆墨と、黒々と渦巻くストロークがカオスを象徴する中に、未来を象徴する赤子が瞑想する如来のように配されています。シンプルな



霧島市長賞
『内なる菩薩』
小谷野 嘉子

描線で描かれた首元の線やくびれのある手首など、もともと無垢な赤子の造形的特徴を持つ如来と赤子の姿が重なり合います。VUCA※と呼ばれて久しい混沌とした現代への希望と祈りの形象化ということでもあるのでしょう。

優秀賞を受賞された安楽千恵子さんの『産卵』は、フグの産卵という珍しいテーマで描いています。全体にグレーの墨の階調が美しいなかに、細かい白斑がある背中に特徴的な黒丸、そして産卵を迎えて膨らむ白い腹というフグの体色が浮かび上がります。対角線構図の下辺にフグを密に配置することで、群れながら競って浅瀬に向かう勢いがよく表現されています。

同じく優秀賞を受賞された小倉繁子さんの『屋根、屋根、屋根！』は、題名通りに重なり合う屋根を画面いっぱい描いた作品です。屋根が作り出すジグザグの線をたどって奥に向かう空間に、対角線上に並ぶ木を挿入することで、単調にならないような工夫をされています。濃淡による表現ではなく、屋根瓦の1枚1枚までを丹念に描く北宋風の描写によって、油彩画に拮抗する重厚感が出ました。

秀作賞を受賞された馬場鷹虹さんの『黄金の富士山』は、これぞ写生にもとづく近代水墨画というような、説得力を持った作品です。前景の木々と、そびえる峻厳な雪の霊峰との対照によって、画面が大きくダイナミックに感じられます。雪煙を強調することで、臨場感と動きも生まれました。樹木の枝の表現などには、浦上玉堂の『東雲飾雪図』に通じる繊細な震えを感じます。

同じく秀作賞の中園淳一郎さんは、これまでも挑戦的な作品を描き続けてきました。今回の『箱男'25』は、コラージュによる半立体的な表現になっています。審査の過程でも、水墨画のカテゴリーに入るかどうかという話も出たところです。墨による表現と出品規程という外枠を、ギリギリのところを守りつつ、表現の可能性を広げていこうとする、たくましい制作意欲を感じます。題名といい、カラー

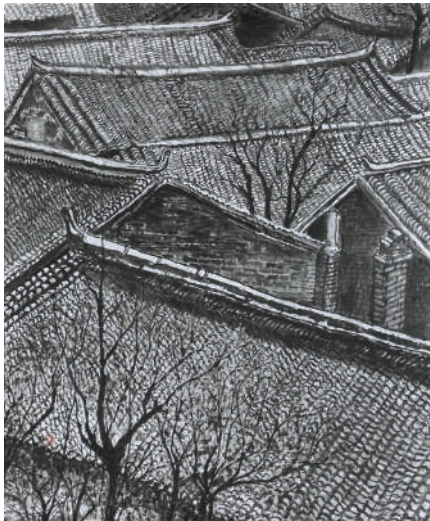
※ VUCA: 先行きが不透明で将来の予測が困難な状態



優秀賞・南日本新聞社賞
『不安定な未来』
田畑 弘子



優秀賞
『産卵』
安楽 千恵子



優秀賞
『屋根、屋根、屋根!』
小倉 繁子

ジュの段ボール風の描写といい、独特のブラックユーモアをもって、現代社会を鋭くえぐり出した阿部公房の同名小説を連想させます。ひょっとして、小説の箱男のように、段ボール箱を被った中からのぞく自画像でしょうか。問いかけるような眼差しが、観る者に向けられています。

同じく秀作賞を受賞された小田柿寿郎さんの『裏通り』は達者な作品です。技術的な水準がたいへん高く、筆法も個性的で勢いがあり、ぼかしを使った陰影や澁墨によるアクセントも効果的です。この裏通りの情緒ある光景には、適度に湿度が抜けた洒脱な軽さも感じられます。

同じく秀作賞の浜田真喜子さんの『赤トンボ』は、前景のトンボに焦点を合わせた緻密な描写と、背景のややぼかして描かれた蓮の葉との対照がみごとです。写生画でありながら、幻想的であり、ストーリー性も感じられます。蓮の葉を通して描き出された、トンボを包むような穏やかな光の表現も効果的です。

同じく秀作賞の河端庸雄さんの『降るかなあ』では、兄妹でしょうか、よく似た面立ちで、同じ方向を見上げる子どもたちの表情を生き生きと捉えておられます。子ども特有のしゃがんだ姿勢や手つき等、観察する眼差しに込められた愛情がストレートに伝わってきます。雨靴や女の子のレインコートの描写も細やかです。写真によらない、人物のクロッキーやデッサンを重ねられると、より素晴らしい人物表現につながるのではないかと思います。

最後は無鑑査賞を受賞された伊與田喜代美さんの『WILD LIFE - 喪失と再生 -』です。前回と作風が変わったことに、驚きと頼もしさを感じました。受賞を重ねて無鑑査ともなると、なかなか自己のスタイルを変え難くなりそうですが、ますます意欲的に技法を開拓されていっしょにいます。数か月の命を繋ぎながら旅する蝶「アサギマダラ」をテーマに選ばれ、闇と光の抽象的なグラデーションを背景とすることで、自然に置ける生と死の循環、その狭間での自由に向けた命の懸命な羽ばたきをシンボリック

に描いておられます。創作世界がますます広がる予感に、次回作への期待が高まります。

受賞された皆様におかれましては、ぜひ挑

戦的な出品を続けていただきたいと思います。ますますのご健筆を祈念申し上げ、受賞作の講評といたします。



《審査講評》

谷口 雄三

(鹿児島市立美術館 副館長)



秀作賞
「黄金の富士山」
馬場 鷹虹

受賞された皆様おめでとうございます。鹿児島市立美術館で学芸員を務めておりました谷口と申します。どうぞよろしくお願いたします。

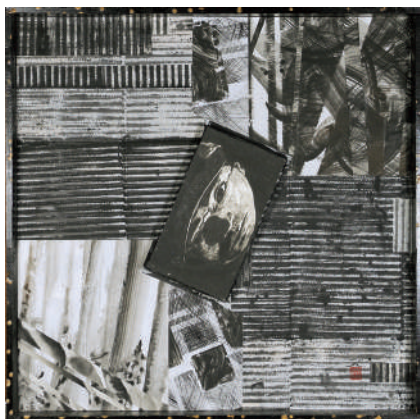
今回は40回記念の展覧会となりますが、実は鹿児島市立美術館も今年で開館40周年を迎えました。南九州水墨画展は長年当館にて開催していただいていたご縁があります。今回は鹿児島市立美術館1階の両展示室を使用し、記念展にふさわしい規模で開催していただいております。また、当館としても40回記念展にご協力したいと考え、特別に当館収蔵の水墨画を代表する作品3点を展示しております。

まず、この南九州水墨画展は、「第二の木村探元を探そう」という壮大な構想のもとに始まった展覧会ですので、木村探元の大作であります『耕作図屏風』を常設展示にてご紹介しております。薩摩藩の御用絵師であった木村探元の作品は、狩野派の典型的な作風を示しながらも、人物表現に非常に生き生きとした魅力が感じられます。

企画展示室には、等碩による水墨画を展示しております。等碩は室町時代の絵師で、雪舟の孫弟子にあたる人物です。本作は、当館においても年に一度展示できるかどうかというほど貴重な作品で、当館収蔵品の中では最も古い作品になろうかと思えます。ぜひ、その格調を感じていただければと思います。

もう1点は、木村探元の弟子である押川元春による『寒山拾得』です。寒山拾得は日本画では典型的な主題です。非常に奔放な筆致が見られます。本日はスケジュールも大変お忙しいことと存じますが、ぜひこの3点をご覧いただければと思います。

私は鹿児島市立美術館で長年学芸員を務めてまいりましたが、専門は洋画であり、水墨画の専門ではありません。そのため、水墨画としてではなく、一つの「絵画作品」として拝見し、審査させていただいたことをご承知おきいただければと思います。これからいくつか作品をご紹介させていただきますが、あくまで受賞作に次ぐ「ベスト10」というこ



秀作賞
『箱男 '25』
中園 淳一郎



秀作賞
『裏通り』
小田柿 寿郎

とではなく、私個人の主観に基づく所感をお話するものですので、皆様の今後の制作のご参考の一つとしてお聞きいただけましたら幸いです。

岩野信吾さんの『月と波』という作品です。最初拝見した時には月と波に見えなかったのですが、コメントを拝見すると、偶然できた形から命名したタイトルであり、偶然性を生かした作品であることがわかります。私は抽象絵画として拝見しました。にじみの表現なども面白く、書の作品のようで異色の一作として印象に残りました。

松永俊枝さんの『怪鳥襲来』。これもユニークな作品です。非常に迫力のある表現ですが、ちょっとテーマが解りにくいという印象も受けました。例えば、写真作品で人体にみえる野菜など素材とテーマが一目で理解できるものがありますよね。この作品は木で作られた怪鳥を描かれたと思いますが、絵画となると少し難しい。つまりこれが描写なのか作者の表現なのか幻想なのかということがわかりづらいところがあるかと思います。怪鳥を描くならご自分のイメージで怪鳥として描く、木の寄せ集めであることを示すのであればもっと木らしく表現した方が伝わりやすかったかもしれません。ただ非常に迫力のある作品であることは確かだと感じました。

田路喜久子さんの『飛翔』という作品です。潜水引きで波しぶきが表現されており、光の表現も達者です。特に右側の空間に奥行きがあって素晴らしい。しかしどうしても「決まりすぎている」といいますか、典型的で、カレンダーの写真のように見えてしまう部分も感じられました。上手すぎるといいますか、完成しすぎという感じがしました。鳥を一羽にするという選択もあったのではないかと思います。作者は三羽で時間の経過を現わしたかったのかもしれません。あえて完成しすぎないという視点も含め、制作を考えられてもよかったのではないかと感じました。

吉留孝政さん『おかげさまで』という作品です。白黒バランス、表現力、タッチ、非常に達者な作品です。これはあくまでも私の主観ですが、地蔵のお



秀作賞
『赤トンボ』
浜田 真喜子



秀作賞
『降るかなあ』
河端 庸雄

顔が魅力的すぎる、あるいはユニークすぎるかなと思いました。人の顔のようにも、可愛いお地蔵さんのイラストのようにも見えてきます。もし無表情な地蔵であれば、より余韻が生まれ、トンボとの対話など見る方が想像の余地を膨らますことができたのではないのでしょうか。作者の方はこのユニークな地蔵の顔を描きたかったかと思うのですが、私はその様に感じました。

藤野美恵子さん『薔薇の華』という作品です。筆を置くように花卉を一つひとつ積み重ねていくという典型的な薔薇の描き方だと思いますが、私にはそれがかえって新鮮に見えて、キュビズム絵画を思わせる幾何学的な構成のようにも見えました。構図も練られており、明暗のバランスや表現の変化にも配慮が感じられます。薔薇が匂ってくるような、非常に新鮮な感じがする作品です。

佐多光城さんの『過去の松下6号館』という作品です。画面下の地面のあたりに緑の淡彩が入っており、必要だろうか？と思いましたが、水色のマット（作品押さえ用紙）と相性が良く、全体として調和していると感じました。今回は40回記念展ということもあり、美術館そのものを描くことは作戦勝ちと言いますか、記念展だからこそうしたテーマの作品ももっとあっても良いのではないかと思います。応募にあたって戦略を立てる、こういった作品が求められているかと考えることは非常に重要です。さらにこの作者の場合は、コメントに「最初出品した頃の美術館」と書かれていることから、この方の出品の歴史、思い出も加味されており、その意味でも今回の展覧会にふさわしい作品だったのではないかと思います。

柏原良太郎さんの『世界平和』という作品です。龍が玉を持ち、願いをかなえる存在として描かれる姿は、作者の願いである世界平和を端的に示し、まさに時事にかなった作品だと感じました。描写力、丁寧な筆致はいずれも確かで、月や富士の柔らかな表現と、龍の非常に硬質な表現との対比、そのバランスの取り方も見事です。一方で、こういった作品



無鑑査賞
『WILDLIFE -喪失と再生-』
伊與田 喜代美

は、我々からしますと少し違和感を覚えてしまいます。それはイラスト的に見えてしまう、あるいは出来すぎている感じがしてしまう点です。昔から「絵画とイラストはどう違うのか」という論争があるのですが、一般に、明確な主張や目的を伝えるのがイラストであり、あいまいなグレイゾーンがあって見る人に鑑賞の余地を与えるのが絵画だと考えられます。その意味では余韻や曖昧さがない作品であるともいえるでしょう。水墨画展の会場内では異彩を放つ、非常に若々しい作品ですが、少しイラスト的に見えるという側面も持っています。

上村豊子さんの『海月』です。非常にリズムカルな作品で、構図もしっかりと決まっています。その一方で、海月ならではの自由奔放さも感じられ、まさに絶妙な匙加減の表現だと思いました。海月を一筆でくっと円を描く、その一筆の勢いこそが水墨や日本画の大きな魅力だと思いますが、本作ではそれが見事に生かされています。やり直しのきかない水墨という特性が、むしろ強みとして働いており、その点が非常に印象に残る作品でした。

山下香菜子さんの『桜島は生きている』という作品です。圧倒的な技術力を備えた作品で、スーパーリアリズムと言ってもいいかもしれません。青い墨を用い、火山灰の雰囲気がよく伝わってきます。素材の選択も含めて非常によく考えられています。一方で、ここまで精緻な描写表現をしてしまうと、かえって写真のように見えてしまう側面もあり、そのため、やや平板に感じられる印象を受けたのも事実です。それでもなお、会場内においては描写力という点で群を抜いており、非常に高い完成度を誇る作品であったと思います。

靖涯さんの『おやすみ前の念入りなお手入れ』は、猫をテーマにした作品です。作者は一貫して猫をモチーフに制作されています。毛の一本一本の表現や、毛とひげの描き分け、手前の布とケージの質感の違いまで、非常に丁寧に描写されています。このような作品は、水墨画展という枠組みの中では評価が難しい側面もありますが、一方で展覧会を新鮮に

してくれる、現代の展覧会であるということ
をあらためて気づかせてくれる、新しい風を
運んでくれる作品であるとも感じました。現
代風の新しい作品という点では、先ほど触れ
た『世界平和』とも重なる部分がありますが、
いわゆる「イラスト的」に見えてしまう作品
との違いは何かといえば、対象と真正面から
向き合う、おそらくご自身の飼猫であろう
モチーフと向き合い、じっくりと描写しよう
とする姿勢が伝わってくる、だからこそ、同

じ現代的な表現であっても、私たちの心に強
く響いてくるのではないのでしょうか。

以上、いくつかの作品を取り上げてご紹介
させていただきました。冒頭で申し上げまし
たとおり、現在当館で展示しております過去
の巨匠の作品も、ぜひ参考にしていただきな
がら、今後の制作に取り組んでいただけれ
ばと思います。本日は誠にありがとうございました。

審査風景



《審査講評》

今岡 琴子^{れんげ} (紫雲英)
(水墨画家)



第40回全国公募南九州水墨画展
審査員特別出品作品
『生きる』今岡 紫雲英



40回記念展
審査員特別出品作品
『みちのくのいとしいほとけたち』
今岡 紫雲英

おはようございます。昨年もお話したと思います
が、今回は40回展です。私は20回展から審査員と
して20年鹿児島に通わせていただいております。
現在83歳です。85歳までは頑張りたいと思ってい
ましたが、この水墨画展に出品される方の中には90
代の方がたくさんいらっしゃいます。言葉にすると
それが現実になると言いますよね。私も90歳まで
頑張りたいと思いますので、皆さんよろしくお願
いします。(会場から拍手)

いつものように私が個人的に良いと思った作品を
紹介します。

岩元明美さん『藤波の花は盛りになりけり』。
藤の花の大きさと白さに魅力を感じて選ばせてい
たきました。

佐野奈津美さん『通り雨』。私はいつも濃い墨ば
かり使っているのですが、この方は薄い墨で通り雨
を表現されています。良く見せていただきますと、
湿った感じ、雰囲気良く出ているなと思って感心
いたしました。

永野安郎さん『泰平・豊穰を祈って!』。流鏝馬
の騎手の表情が凄く面白い。そして丁寧に描いてい
らっしゃる。なかなか私にはできないことだなど
思って選ばせていただきました。

吉田昌勝さん『収穫』。お米の収穫で稲の穂を稲
架に掛けるというんでしょうか、その様子がすごく
いいなと思ったのですが、もう一息白を、前に芝先
生がよく「白を残せ」とおっしゃっていましたが、
もう一息白を残せば良かったかなという作品です。

それから安田秀樹さん『阿吽』。芝先生の生徒さ
んでらっしゃるのでしょうか。作品を見た途端に芝先
生を思い出して、ああ、懐かしいなと思って選ば
せていただきました。

最後は吉元よしえさんです。『草露白』。何気ない
草原っていうのはなかなか水墨画で表現しにくい
のですがよく描かれたなと思いました。

以上です。では来年も皆さんよろしくお願
いいたします。

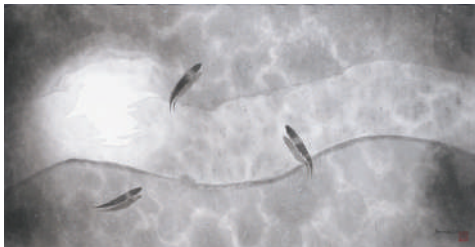
《審査講評》

大谷 喜郎

(現代水墨画家)



第40回全国公募南九州水墨画展
審査員特別出品作品
『水を紡ぐ』大谷 喜郎



40回記念展
審査員特別出品作品
『月光(歎異抄)』大谷 喜郎

皆さんおはようございます。今回から審査をすることになりました大谷です。この度は、入賞された皆さま誠におめでとうございます。

今回初めて審査をさせていただいた感想と、日頃私が作品を制作していく上で心掛けていることについて、少し分かりにくいかもしれませんがお話させていただきます。

実は今から30年程前までは、私も皆さんと同じようにこの展覧会に出品しておりました。当時と比べると、出品数は増え、作品のレベルも格段高くなっているように思います。今回受賞された作品はどれも素晴らしいもので、私自身大変勉強になりました。

今回皆さんの作品を選考したのは我々審査員ですが、その前にご自身の作品を審査されたのは皆さん自身だと思います。そこで考えていただきたいのが、皆さんはご自分の作品をどのような基準で、あるいはどのような方法で判断されるかということです。自分の作品を自分で評価することは、大変重要な作業だと思います。今回はそのことについて少しお話ししたいと思います。

私の場合、自分の作品が成功したかどうかを見極めるときに良く使う方法があります。参考にさせていただければと思うのですが、それは作品を少し離して「ぱっと見る」のです。その瞬間、作品が成功しているかどうか分かります。というより、分かるようになりました。もちろんその後で細部の修正はします。ただじっと見続けていると、自分の作品ですから、どうしても良く見ようとしてしまい、部分的に上手くいった箇所を探してしまいます。でもいくら部分的に優れたところがあっても、全体としてうまくいっていなければやはり駄目です。絵画は、全体のバランスが大事です。私は最終的に、ぱっと見た時の直感で作品が成功したかどうかを決めることにしています。

別な例でお話しますと、皆さんも経験があると思いますが、展覧会で自分の作品を見るのは怖くないですか？私は怖いです。なぜなら、自宅では、もちろんぱっと見て、そして細部までチェックし、納得

して出品した作品でも、広い展覧会場であらためて見てみると、全体の構図や墨の濃淡のバランスなどが一瞬にして目に入り、欠点がすぐわかってしまうからです。そして「ああダメだ、この絵は失敗だ」と展覧会場で初めて気付くことがあります。ショックを受けて会場を後にするということがこれまで度々ありました。それだけに、絵画は全体のバランスがいかに重要であるかを私は痛感しています。

実は、今日会場に展示してある私の作品を恐る恐る見ました。横目でちらっと見ました。特に違和感はなかったので今はほっとしているところです。

もうひとつ大事に思っていることがあります。作品の良し悪しは単に技術のレベルだけで決まるものではないということです。部分的に稚拙であっても、魅力的な作品は数多くあります。特に水墨画は描くことそのものが難しい分野です。例えば、竹を竹らしく描く技術、松を松らしく描く技術など、水墨画独特の技術がありますよね。もちろんそうした

技術を習得することは大事な事ですが、そういった表面的な技術の習得だけに執着してしまうと、それが最終的な到達点であるような錯覚に陥り、そこで作品が終わってしまうことがあります。実際そういう作品をよく見かけます。何を表現したいのかという凜としたテーマを持たなければ、作品は単なる情景描写、場合によってはイラストの域に留まってしまうと思います。ここら辺りが私自身を含め、水墨画を描いていく上での一つの課題だと思っています。

長々と自分の持論を述べさせていただきましたが、それらの事を踏まえて今回の審査をさせていただきました。受賞作品は、どれもテーマがはっきりしていて、奇をてらうことなく、余計な説明的描写もなく、大変好感の持てるものばかりでした。「良い作品が揃ったな」というのが私の率直な感想です。ぜひ来年に向けて、早速今日からでも作品の構想に取り組んでいただければ幸いに思います。期待しております。

第40回《全国公募》南九州水墨画展

2025年7月8日(火)～7月13日(日) 鹿児島市立美術館 一般展示室 2
2025年7月15日(火)～8月17日(日) 松下美術館
2025年8月19日(火)～8月31日(日) 霧島市役所国分庁舎 一階ロビー

《入選作品》



『いやされて』
橋口 カツ子



『白い花』
橋口 カツ子



『酔芙蓉』
小亀 文代



『冬の白神山』
外崎 裕瀧



『水化粧』
杉野 博



『清涼』
宮田 貞子



『dynamic』
森山 明美



『名月が贈った幸せ』
大原 鶴雄



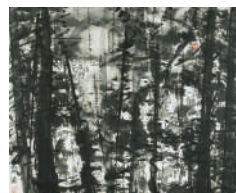
『夏休み』
七村 富子



『ゼロからのチャレンジ♪』
永吉 ひと美



『歴史を刻んで』
増山 光子



『雨月』
坂中 正典



『いにしへの道』
江田 直子



『大地に生きる』
原口 たい子



『藤波の花は盛りになりけり』
岩元 明美



『マチュピチュの思い出』
谷口 禮子



『空翔ぶ恐竜』
山西 智美



『たわわな実り』
櫛下 多恵子



『屋久島に生きる』
新川 美代子



『春陽の参道』
山下 則子



『遺跡』
榎田 耕治



『月と波』
岩野 信吾



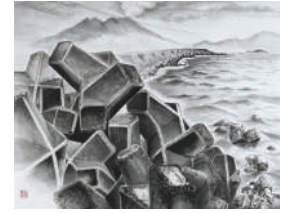
『我 仁王尊なり』
川原 はま子



『楽園』
根比 れい子



『這い上がる』
佐藤 周作



『護岸の片隅(鴨池港)』
下窪 瑞江



『怪鳥襲来』
松永 俊枝



『雲山幻幽』
清水 恵峰



『泰平・豊穡を祈って!!』
永野 安郎



『寺院』
入舟 和子



『微笑み』
久次米 加代子



『もうすぐ春ですね』
小田 華實



『瀑流眺望』
立花 純之



『街の遺産』
藤谷 實



『緑降る季節』
三宅 玲子



『絶対無二の一球』
高尾 久美子



『水の都』
松元 洋子



『羅漢像』
清水 孝子



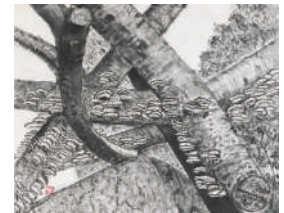
『飛翔』
田路 喜久子



『おかげさまで』
吉留 政孝



『渦』
上野 貢一



『食べられるのかな?』
馬渡 裕子



『若夏』
嶽本 幸子



『観覧』
池上 和昭



『マオリの女』
植山 貞子



『元気に育て』
福園 睦雄



『福寿の七福神』
池添 史朗



『阜陽』
梶田 信子



『楽しみのせんべろへ』
山崎 美千代



『早朝の道』
満留 ミエ子



『寺山公園から』
満留 辰男



『薔薇の華』
藤野 美恵子



『羅漢像』
池田 協治



『春よこい』
石丸 京子



『ご神木』
渡部 利舟



『静寂』
鴻上 勝繁



『朝霧の湖辺』
本長谷 孝充



『黒豹～一意専心～』
阿 喜



『収穫』
吉田 昌勝



『春の訪れ』
田口 綾子



『鶴の穴(甌島)』
長井 竜仙



『晩秋の滝之下』
長井 笠赤



『空間の観察10(熊野神社)』
Troutman Christopher



『過去の松下6号館』
佐多 光城



『羽音』
穂積 英一郎



『高値いつまで』
中野 広志



『こころ弾む』
入波平 八代美



『世界平和』
柏原 良太郎



『通り雨』
佐野 奈津美



『海月』
上村 豊子



『石橋の水路』
有延 美智子



『阿吽』
安田 秀樹



『冠雪』
中俣 シマ子



『桜島は生きている』
山下 香菜子



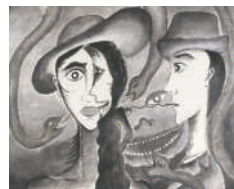
『緑風』
佐藤 洋子



『朝もや』
堂園 ヨシ子



『パワースポット』
篠原 マリ子



『蛇使い』
佐々木 信毅



『大道芸人』
古山 秀子



『春を告げて』
三浦 はるみ



『鎌倉時代からの勇姿』
長野 イク子



『草露白』
吉元 よしえ



『おやすみ前の念入りなお手入れ』
靖 涯



『復興に向って』
藤門 葉子



『香ににほふ』
森川 道子

《40回記念展》

全国公募南九州水墨画展 40回記念回顧

『墨画—松下美術館の軌跡』展

南九州水墨画展の第40回展開催を記念し、全国公募南九州水墨画展記念回顧『墨画—松下美術館の軌跡』展を開催しました。

本展では、近年の南九州水墨画展において受賞された作家の作品を紹介し、水墨画の持つ多様な表現と魅力を伝えるとともに、南九州水墨画展が歩んできた歴史を振り返る機会となりました。

【展覧会期】

令和7年7月8日(火)～7月13日(日) 鹿児島市立美術館 一般展示室1 (公募展・記念展同時開催)

令和7年7月23日(水)～7月27日(日) 都城市立美術館 市民ギャラリー

令和7年8月19日(火)～8月31日(日) 霧島市役所国分庁舎1階ロビー (公募展・記念展同時開催)

【後援】 鹿児島県、霧島市、霧島市教育委員会、鹿児島県文化協会、南日本新聞社

出品作品は、南九州水墨画展の第30回から39回展までの入賞者の中から、本展の趣旨にご賛同いただいた方々の作品に加え、長年にわたり南九州水墨画展にご尽力いただいている4名の特別功労賞受賞者の作品、ならびに審査員の先生方による特別出品作品で構成し、合計52名、53点を展示しました。

青森県から鹿児島県まで全国各地からご出品いただき、各回の最高賞受賞作品7点を含む、充実した展示内容となりました。

また、例年南九州水墨画展(公募展)の会場として使用している鹿児島市立美術館、松下美術館、霧島市役所国分庁舎一階ロビーに加え、今回は初めて宮崎県の都城市立美術館において巡回展示を実施しました。松下美術館の所在する鹿児島県霧島市に近接する都城市で開催したことにより、南九州水墨画展を知っていただく機会が広がりました。なお、鹿児島市立美術館、霧島市役所国分庁舎1階ロビーでは、公募展と記念展を同時開催しました。

全国公募南九州水墨画展 40回記念回顧
『墨画—松下美術館の軌跡』展
第30回から第39回展の入賞作品約50点を展示

2025年 7月8日(火)～7月13日(日) 鹿児島市立美術館 一般展示室1
2025年 7月23日(水)～7月27日(日) 都城市立美術館 市民ギャラリー
2025年 8月19日(火)～8月31日(日) 霧島市役所国分庁舎一階ロビー

第40回 全国公募南九州水墨画展
2025年 7月8日(火)～7月13日(日) 鹿児島市立美術館 一般展示室1
2025年 7月23日(水)～7月27日(日) 都城市立美術館 市民ギャラリー
2025年 8月19日(火)～8月31日(日) 霧島市役所国分庁舎一階ロビー

主催 一般社団法人 松下美術館
後援 鹿児島県 / 霧島市 / 霧島市教育委員会 / 鹿児島県文化協会 / 南日本新聞社
TEL 0992-31-0100
FAX 0992-31-0100
http://www.matsudaira-art.com / http://www.kagoshima-nippon.com

本展入場無料



鹿児島市立美術館 会場入口



鹿児島市立美術館 展示



都城市立美術館 外観



都城市立美術館 展示



霧島市役所国分庁舎1階ロビー 展示



芝龍郎先生 追悼展示

40回記念祝賀会

7月13日(日)、鹿児島市立美術館において表彰式を執り行い、終了後の13時から、城山ホテル鹿児島にて記念祝賀会を開催しました。

祝賀会には、水墨画展出品者の皆様やご家族をはじめ、審査員の先生方、ならびにご後援を賜っている関係各位にご臨席いただきました。

【御来賓】霧島市長 中重真一様 南日本新聞社事業部長 内立元正嗣様

国分進行堂社長 赤塚恒久様・赤塚悦子様 水墨画展出品者とその関係者の皆様29名

祝賀会の冒頭では、館長の松下兼介より、南九州水墨画展発足当時のことや、前館長の意志を引き継ぎながら今日まで公募展を継続してきた経緯、またパリで開催した第20回記念展の思い出が語られました。第40回展という節目を迎え、本公募展が出品者の皆様にとりましてよい刺激となり、ここから新たにすばらしい画家が誕生することを願っているとの挨拶がありました。結びに、故・芝龍郎先生へ追悼の意を込め、ヒポクラテスの言葉「人生は短し、しかれど芸術は永し」が捧げられました。



館長 松下 兼介



会場では、南九州水墨画展のこれまでの歩みと、昨年ご逝去された芝龍郎先生の足跡を振り返りながら映像を上映しました。創設当初の貴重な記録や本展水墨画の歴史とともに、先生が審査や講評をされる姿が映し出され、皆様は在りし日のご指導を懐かしみながら、そのご功績の大きさをあらためて心に刻まれていました。

また当日は、出席された出品者の皆様一言ずつスピーチをお願いし、それぞれが水墨画との関わりや制作への思い、今後の抱負を述べられました。

会の中では、長年にわたり展覧会を支えてくださっている今岡琴子先生、故・芝龍郎先生をはじめ関係者の皆様へ、改めて感謝の意をお伝えしました。本展が多くのの方々への支えのもとに築かれてきたことを実感する機会となりました。

このように祝賀会を通して、出品者同士の交流が深まり、本展の意義をあらためて感じるひとときとなりました。



感謝状贈呈



御来賓の皆様と審査員

左から審査員 谷口雄三先生 今岡琴子先生 霧島市長 中重真一様
松下兼介館長 審査員 松下兼宗 南日本新聞社事業部長 内立元正嗣様
審査員 大谷喜郎先生 石川千佳子先生 国分進行堂社長 赤塚恒久様

今後も南九州水墨画展が水墨画の魅力を広く伝える場として発展していくよう、関係者一同力を尽くしてまいります。

第30回から第39回展までの入賞作品を収録した「40周年記念画集」を発刊しました。10回展ごとの節目に制作しており、本画集は4冊目となります。記念画集は松下美術館にてご購入いただけます。

《記念展出品作品》

審査員特別出品

今 岡 琴 子	みちのくのいとしいほとけたち
大 谷 喜 郎	月光(歎異抄)
芝 龍 郎	疑心

受賞出品者一覧

作者名	回数	賞名	作品名
遠 矢 ノ ブ	30回	鹿児島県知事賞 松下美術館館長賞	花冷え
Troutman Christopher	30回	霧 島 市 長 賞	ウォッチング
河 端 玲 子	30回	優 秀 賞 南日本新聞社賞	雪に舞う
田 畑 弘 子	30回	優 秀 賞	かゆいゾウ
植 村 曠	30回	秀 作 賞	春を待つ
池 上 和 昭	31回	鹿児島県知事賞 松下美術館館長賞	イチヨウの樹の下で
小 倉 繁 子	31回	霧 島 市 長 賞	運河(蘇州)
浦 野 かよ子	31回	優 秀 賞	お父様
林 川 美 代	31回	秀 作 賞	生命
大 村 笑 子	32回	優 秀 賞 南日本新聞社賞	悠久の雫
清 水 めぐみ	32回	秀 作 賞	さらさら
山 下 彩 奈	33回	鹿児島県知事賞 松下美術館館長賞	見ている
馬 場 鷹 虹	33回	霧 島 市 長 賞	放牧
小 田 柿寿郎	33回	優 秀 賞 南日本新聞社賞	追想
秦 奈穂子	33回	優 秀 賞	揺れる想い
西 涼 子	33回	秀 作 賞	渾身
堂 園 ヨシ子	33回	秀 作 賞	いにしえの道
齋 藤 衣 子	33回	秀 作 賞	大道芸人
佐々木(加藤)清香	33回	秀 作 賞	春陰
千 葉 勘 行	34回	鹿児島県知事賞 松下美術館館長賞	アスリートの目
櫛 下 多恵子	34回	霧 島 市 長 賞	膝小象
小 亀 文 代	34回	優 秀 賞 南日本新聞社賞	靨
高 尾 久美子	34回	優 秀 賞	炎の軌跡
上 村 豊 子	34回	優 秀 賞	メモリー

作者名	回数	賞名	作品名
丹 桂 子	34回	秀 作 賞	森に還る
長井笠赤(龍石)	34回	秀 作 賞	田毎の神
梶 田 縷 紅	34回	秀 作 賞	爽風の館
羽 賀 秀 子	36回	鹿児島県知事賞 松下美術館館長賞	津軽平野
山 田 さえ子	36回	霧 島 市 長 賞	風わたる
森 川 道 子	36回	優 秀 賞	生命
山 下 香菜子	37回	優 秀 賞 南日本新聞社賞	昇る湯けむり別府
田 路 喜久子	37回	優 秀 賞	高原の朝
藤 門 葉 子	37回	秀 作 賞	湯の町の見晴らし台
中 園 淳一郎	37回	秀 作 賞	方形の荒野'22
古 山 秀 子	37回	秀 作 賞	手とてとテ
伊 與 田 喜代美	38回	鹿児島県知事賞 松下美術館館長賞	月夜のバ・ド・ドゥ
谷 口 禮 子	38回	霧 島 市 長 賞	イタリアベニスの橋
白 坂 伸 子	38回	優 秀 賞	遅れてくるアオ
近 藤 守	38回	優 秀 賞	nostalgic
永 吉 ひと美	38回	秀 作 賞	どら行こかい♪
中 野 広 志	38回	秀 作 賞	竹の子
伊 與 田 喜代美	39回	鹿児島県知事賞 松下美術館館長賞	灼熱
三 宅 玲 子	39回	霧 島 市 長 賞	春のさががけ
山 西 智 美	39回	優 秀 賞	空翔ぶカメ
入 波 平 八代美	39回	秀 作 賞	時の語り部
井 上 由 佳	39回	秀 作 賞	准胝観音
浜 田 真喜子	39回	秀 作 賞	甌穴群(関ノ尾)

特別功労賞受賞者

橋 口 カツ子	第32回展受賞	のこり花
小 田 華 實	第37回展受賞	水の競演

遠 矢 ノ ブ	第32回展受賞	花冷え
池 添 史 朗	第37回展受賞	閑寂

《夏休み特別企画》

夏休み実技体験

親子水墨画体験

日時：令和7年8月3日(日) 13時30分～16時

会場：松下美術館 6号館

講師：櫛下 多恵子先生

参加者：霧島市の小学生10名、保護者10名



松下美術館が夏休みに実施している親子水墨画体験教室は、霧島市教育委員会との共催開始以来、今回で8回目の開催となりました。霧島市博物館体験学習「霧島博物館めぐり」の一環として毎年実施し、親しまれている体験講座です。

受講者は、練習用紙に何枚か描いて筆遣いを学んだ後、自分が描きたい題材を選び、色紙に作品を仕上げました。また、希望者は事前に配布されたお手本に加え、講師が別途用意した画題にも挑戦しました。

講師が一人ひとりの手を取りながら丁寧に指導することで、コツをつかんだ子どもたちの作品は、指導後にはぐっと表情豊かなものへと変化していきました。参加者はいずれも熱心に取り組み、完成した作品を手にした表情からは、描く楽しさと達成感がうかがえました。



《寄贈作品》《無料入館のご案内》

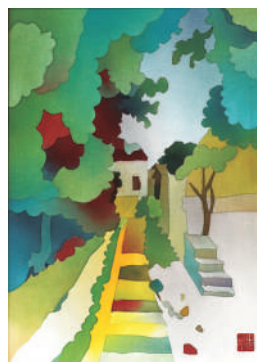
寄贈作品紹介

南日本新聞社主催の南日本美術展第23回吉井賞受賞者、中野裕子氏より、令和7年12月に『小道にて（オーヴェル＝シュル＝オワーズ）』をご寄贈いただきました。

作品は、日本に古くから伝わる染色技法「ろうけつ染」により制作されたもので、完成までにおよそ一月を要したとのこと。フランス滞在中に訪れた、フィンセント・ファン・ゴッホ終焉の地として知られるオーヴェル＝シュル＝オワーズの風景が、繊細な色彩によって詩情豊かに描かれています。

中野氏は鹿児島県ご出身で、公益社団法人日本新工芸家連盟会員、鹿児島県美術協会会員としてご活躍中です。令和6年4月からは鹿児島県海外派遣美術留学生として1年間フランスに滞在されました。なお、当館は吉井賞の運営に協力しています。

ご寄贈いただいた作品は、現在、松下美術館1階ロビーに展示しております。ご来館の際にはぜひご覧ください。



【寄贈作品】
『小道にて(オーヴェル＝シュル＝オワーズ)』
ろうけつ染 F4



無料入館のご案内

松下美術館は、「子供たちが文化に触れる場所を作りたい、人々の心を潤し地域貢献をしたい」との初代館長の思いから開設された美術館です。社会貢献活動の一環として下記の児童・生徒の皆さんは無料でご見学いただけます。

- 霧島市立福山小学校（休校中）、牧之原小学校、牧之原中学校、鹿児島県立福山高等学校、鹿児島県立牧之原特別支援学校の生徒の皆さん
- 夏休み期間中は上記以外の霧島市の小・中学生も学習の一環としての利用の場合は無料
- 5月5日こどもの日（小・中・高校生・地域不問）

遠足や校外学習などで利用の際は引率の先生方は無料となります。詳細は松下美術館までお問い合わせ下さい。



37 わが家の神棚

わが家には上段と下段の神棚がある。神棚といえば『家の中で大神宮などの神符を祭る棚』という意味らしいが、わが家の神棚には神様を守る社（屋代）と仏像がそれぞれ置かれている。そのような配置をいつも不思議には思いつつ、神様故に先祖からの“しきたり”でこのように配置されているのであろうと、特に深く考えることもなくこれまで過ごしてきた。しかしこの年になり、神様と仏像がどうして同一の棚に置かれているのか、神仏混合とはいえ疑問の思いが強くなり、小生なりにいろいろ先祖のことを調べているうち、おぼろげながらその意味がわかってきた。今後の子孫のためにもここに書き留めておきたいと思う。



神棚(上段)



神棚(下段)

元来、わが国の宗教は神教であったが、大和時代の538年、百濟から仏教が伝わり、仏教受容をめぐり物部氏と蘇我氏との間で激しい争いの末、仏教を受容する蘇我氏の勝利により、その後わが国は神教と仏教が混在する神仏混合の時代が明治維新まで長く続くことになる。その意味からも神様と仏様が同一の棚に置かれていてもおかしくはない。しかし、わが先祖としてわかったことは、戦国時代 松下家第7代 松下久孝が天正15年（1587年）に死亡した時、福山の地にある大安寺で供養が行われていた記録が発見され、そのことから仏教であったことが推測される。仏教の中のどの宗派だったのかはわからないが、大安寺が曹洞宗であったので、わが家もそうであったのであろうか。

その後、代々大安寺での供養が行われていたようである。しかし、世の中は明治維新を迎え、薩摩においては廃仏毀釈の運動は特に激しく、一時期僧尼は1人もいなくなった時期もあったというから、わが家でも神教に改宗したと思われる。しかし、仏像だけは処分するのに偲びず、どこかわからないように隠し安置していたのではないだろうか。その時の仏像であろうか、その古さから推し測ることができるからである。

ところでわが家にはどうして二段もの神棚があるのであろうか。私の母が何気なく話していたことが耳に残っている。「上の段の神棚は松下家の上の神様で、下の神棚が松下家の神様である」というようなことを話していたことがある。すなわち想像するに、上の段の神棚に置かれている屋や仏様は江戸時代に代々伝わり供養されていたもので、下の段が明治維新により松下助五郎兼勝が屋や仏

像、そして鏡などを新しくそろえ拜むようになったのではないだろうか。

下の段の神棚の仏像は上段より新しく、また鏡も明治維新のときにでまわっていた鏡のようである。そのようなことから、まず上段の神様を拜んでから、下の方の神棚の方を拜むようになってくる。下の段の神棚に置かれている社（屋代）は父の時代、福山病院に勤務していた大工の瀬野清二さんに新しく製作してもらったと聞いている。そのためはかなり新しい。しかし、作りはすばらしく後世まで残っていくであろう。仏像も新しくそれはいつ購入したのであるか、それは不明である。社に注連縄などをつけたりするのはどうしてであろうか。その意味なども知りたいと思うことであった。

(松下 兼介)

参考文献

- 1.『三国名勝圖會』全五巻 青潮社 高野和人
- 2.『鹿児島県姓氏家系大辞典』角川書店 鹿児島県姓氏家系大辞典編纂委員会
- 3.『新全国歴史散歩シリーズ』全巻 山川出版社
- 4.『入来文書』柏書房 朝河貫一
- 5.『目でみる仏像』東京美術 田中義恭 星山晋也
- 6.『日本宗教総覧 2001年版』新人物往来社
- 7.『はっきりわかる!日本の仏教宗派』成美堂出版 島田裕巳
- 8.『かごしま文庫』全巻 春苑堂出版
- 9.『人物叢書』全巻 吉川弘文館 日本歴史学会 代表 坂本太郎
- 10.『街道の日本史』全巻 吉川弘文館
- 11.『鹿児島歴史探訪』高城書房 松尾千歳
- 12.『鹿児島文学の舞台』花書院 石田忠彦
- 13.『歴史群像シリーズ』全巻 学研
- 14.『日本書紀』(1-5巻) 岩波文庫 坂本太郎 他
- 15.『続日本書紀』(上・中・下) 講談社学術文庫 宇治谷孟
- 16.『古事記』岩波文庫 倉野憲司
- 17.『古事記伝』(1-4) 岩波文庫 本居宣長
- 18.『歴史文化ライブラリー』全巻 吉川弘文館
- 19.『週刊朝日百科 日本の歴史』全巻 朝日新聞社
- 20.『別冊歴史読本』全巻 新人物往来社
- 21.『先代旧事本紀・訓註』批評社 大野七三
- 22.『古代クマソ王国』NPO未来創研 松元十九
- 23.『西遊記』橘南谿 新日本古典文学大系
- 24.『薩摩の豪商たち』高向嘉昭 春苑堂出版
- 25.『近江の商人屋敷と旧街道』NPO法人三方よし 研究所 サンライズ出版
- 26.『古地図に見るかごしまの町』春苑堂出版 豊増哲雄
- 27.『日向国史』
- 28.『日向地誌』
- 29.『上井覚兼日記』
- 30.『西藩野史 郷土史大系第7巻』
- 31.『島津戦記』(歴史群像シリーズ) 学研
- 32.『街道の日本史 53 高千穂と日向街道』吉川弘文館 安藤保 大賀郁夫編
- 33.『日本史』旺文社 安田元久著
- 34.『さつま人国誌』(戦国・近世編)(幕末・明治編) 南日本新聞社 桐野作人
- 35.『西遊雑記』古川古松軒
- 36.『鹿児島県史料』
- 37.『垂水市史』
- 38.『大将島津義久の苦渋』高城書房 中尾温雄
- 39.『鹿児島県史料』舊記雑録後編6 附録1「島津久章一件」資料並びに覚書 五味克夫
- 40.『佐土原藩譜』
- 41.『落日後の平家』名著出版 永井彦熊
- 42.『新編日本古典文学全集 54 太平記』小学館
- 43.『福山まるごと博物館の可能性を探る』エコミュージアム国際フォーラム in霧島実行委員会 2011年
- 44.『故岩崎行親を偲んで』下野印刷所 松下兼文
- 45.『岩崎行親』下野印刷所 岩崎行義編
- 46.各地域の教育委員会発行の参考資料

～見晴らしの良い場所～
錦江湾を望む日本一小さな礼拝堂

松下美術館の北東の山中、美術館から車で約10分の場所に「錦江湾を望む日本一小さな礼拝堂」があります。礼拝堂の背景には、桜島を中心に大隅半島から薩摩半島まで錦江湾一帯の大パノラマが広がり、季節ごとに異なる風景は圧巻です。これまで様々なメディアで紹介され、多くの方に来訪いただいています。興味のある方は気軽にお立ち寄りください。

※お立ち寄りの際は松下美術館へご連絡ください



6号館貸ギャラリーご利用下さい

美術に関する展覧会、講演会、ワークショップの会場として展示室を無料でご利用いただけます。これまで水墨画 切り絵 絵手紙教室などのグループ展や巡回展などの会場として活用されています。

ご希望の方は松下美術館へお問合せ下さい。

40周年記念画集 発売中！

第40回展を記念し、南九州水墨画展第30回から第39回展までの入賞作品を収録した「40周年記念画集」を発刊しました。記念画集は10回展ごとの節目に制作しており、本画集は第4冊目にあたります。松下美術館にてご購入いただけるほか、発送による販売も承っております。ご希望の方は、美術館までお問い合わせください。

価格 2,500円（税込）

※発送をご希望の場合は、送料が別途必要となります



作品募集

主催／松下美術館
後援／鹿児島県・霧島市・霧島市教育委員会
鹿児島県文化協会・南日本新聞社

第41回 全国公募 南九州水墨画展



第40回鹿児島県知事賞・松下美術館館長賞 田川 稔子「響子ちゃん和水紋」

1. 作品規定

すべてが出品者の自作創作、未発表作品であること。
(他公募展出品作、サイズ違いで同一作と判定される等いかなる場合も不可)
著作権に考慮し、出品者の責任において出品すること。
出品料10,000円(1人2点まで出品可/出品点数にかかわらず同額)
作品サイズ20号まで

2. お申し込み

松下美術館備え付けの申し込み用紙に必要事項を記入の上、申し込むこと。

3. 開催予定

2026年7月7日(火)～7月12日(日) 鹿児島市立美術館 1F展示室

2026年7月14日(火)～8月16日(日) 松下美術館

2026年8月18日(火)～8月30日(日) 霧島市役所国分庁舎 一階ロビー

〒899-4501 鹿児島県霧島市福山町福山771
一般財団法人 **松下美術館**
Tel 0995-55-3350 Fax 0995-55-3351
URL <https://matsushita-art.synapse.kagoshima.jp/>